

# 目次

口 絵  
 発刊のことは(宜野湾市長)  
 市史第六巻の刊行によせて

(宜野湾市史編集委員会委員長)

目次……………一  
 凡例……………三  
 総説……………三  
 年次解説……………三  
   一、大正八年～昭和十五年……………元  
   二、昭和十六年～昭和二十年……………四

## コラム

シルークルーの争い……………三  
 ソテツ地獄……………四  
 南洋興発株式会社……………四  
 県営鉄道……………七  
 県道節のころ……………八  
 教員思想事件……………八  
 本土出稼ぎ……………二四

特高警察……………一七  
 那覇市の水源地問題……………一八  
 ジノーンマチグワ……………二〇  
 ジュリ売りと糸満売り……………二二  
 ウェーキとシカマ……………二三  
 サーターヤー(製糖小屋)……………二四  
 標準語励行……………二五  
 ヌタの検査……………二六  
 経済更生計画……………二七  
 帝国在郷軍人会……………二八  
 改姓改名運動……………二九  
 南洋小唄……………三〇  
 報道管制(一県一紙)……………三一  
 大東亜共栄圏……………三二  
 大日本翼賛壮年団・翼賛選挙……………三三  
 農事試験場……………三四  
 分村計画……………三五  
 桃原茂太……………三六  
 学童疎開……………三七  
 隣組(隣保班)……………三八  
 防護思想・住民スパイ視……………三九

## 収録記事

大正十年(一九二一)  
 学校生徒児童のトラホーム患者……………三  
 簡閲点呼日割第一区……………三  
 佐喜真氏任官……………三  
  
 大正十一年(一九二二)  
 嘉手納線本日開通……………三  
 嘉手納線開通して普天間参詣が  
   余程便利になった……………四  
 南洋の某国と開戦……………四  
  
 大正十三年(一九二四)  
 本県重要物産甘蔗立毛共進会……………五  
 町村議選挙結果……………七  
 普天間便り……………七  
 首里城保存……………八  
 紊乱せる宜野湾村村議選挙……………八  
 大移民会社計画……………九  
 台南製糖国頭工場は宜野湾工場の  
   家屋器械一切を移転す……………九  
 中頭東海岸案内……………九

大正十四年(一九二五)

宜野湾の選挙事件村長派が勝つ 〇〇  
 廣告(薬局生入用) 〇〇  
 山田真山画伯の神宮壁画執筆決定 〇〇  
 宜野湾村の村長選挙 〇〇  
 紊乱せる宜野湾も元は全国で模範村 〇〇  
 沖繩県財政救済の实地調査に行く 〇〇  
 沖繩神社の拝殿特建指定 〇〇  
 軍事教官長崎、沖繩 〇〇  
 沖繩県の財政救済は大体諒解を得た 〇〇  
 沖繩財政救済考究 〇〇  
 県會議員選挙 〇〇  
 沖繩県の財政救済 〇〇  
 政友本党より沖繩県救済を要望 〇〇  
 廣告(全国中等学校優勝野球大会予選) 〇〇  
 毎年百万円宛の産業資金融通を要請 〇〇  
 沖繩救済協議会組織 〇〇  
 砂糖組合が消費税全廃を当局に要望 〇〇  
 沖繩県の救済策を四省會議で協議 〇〇  
 反平尾の旗を翻し混戦を演ずる 〇〇  
 沖繩の多納選挙 〇〇  
 沖繩救済具体協議 〇〇  
 沖繩県の漁夫がシンガポールに出稼ぎ 〇〇

旧債の整理は沖繩県を救ふ妙案 〇五  
 沖繩県の事業を補助する意味で補助金を交付するが民心刷新の必要あり 〇六  
 内務、農林両省は方針を異にする 〇六  
 早くも選挙違反 〇六  
 沖繩の救済は工業の発展が第一の急務だとて工業試験場を設置 〇六  
 沖繩、大島地方を襲ふた暴風雨 〇七  
 鹿兒島沖繩間の命令航路維持運動 〇七  
 沖繩県の財政救済案はほぼ決定 〇七  
 沖繩臨時県会二十六日召集 〇八  
 国庫の補助で県農会拡張 〇八  
 低利資金と借替へる県債 〇八  
 巡查さんが時代思潮研究 〇八  
 廣告(南洋サイパン行募集) 〇八  
 沖繩多議選挙開票は十六日 〇八  
 沖繩県の多額選挙大城氏当選 〇八  
 沖繩県明年度予算前年度を踏襲か 〇九  
 郡役所費も計上 〇九  
 県公金切捨て問題附議の 〇九  
 沖繩臨時県会開く 〇九  
 馬場奏任校長祝賀会 〇九  
 九州沖繩八県の無尽業者連合大会 〇〇

沖繩救済補助の復活を要求する 〇〇  
 滞納二十六万余円の整理実行案成る 〇〇  
 沖繩県に対する国庫補助額決定 〇〇  
 緊縮整理の実を示した沖繩県の予算 〇〇  
 那覇港修築費年度割総額七十万円 〇〇  
 義務教育国庫負担 〇〇  
 経済動員の県下農事懇談会 〇〇  
 農家経済救済案 〇〇  
 沖繩県会劈頭の質問戦 〇〇  
 沖繩県人の南洋移住 〇〇  
 台湾線不通で沖繩電報は郵送の外なし 〇〇  
 幼稚な沖繩の工業は改善すれば有望 〇〇  
 大正十五年・昭和元年(一九二六)  
 廣告(謹賀新年) 〇〇  
 中頭郡水産会会長就任 〇〇  
 被告二十五名がズラリと列ぶ 〇〇  
 麦作指導地五ヶ所に設置 〇〇  
 肝心の書入れ時に豚コレラ蔓延 〇〇  
 原料甘蔗の搬入に気を揉む中頭郡 〇〇  
 町村農会技術員に国庫補助交付申請 〇〇  
 沖繩の疲弊 〇〇  
 法廷ダヨリ 〇〇

方言中の支那語(上)

方言中の支那語(上) 〇七  
 方言中の支那語(下) 〇六  
 沖繩救済の特別会計建議案提出か 〇六  
 沖繩県の徹底的救済を衆議院に請願 〇六  
 郡の組合道路を県に売込みの運動 〇六  
 郡役所廃止と所員の処置 〇六  
 郡役所廃止後に設置する支庁 〇六  
 楊梅(一) 〇三  
 楊梅(二) 〇三  
 楊梅(三) 〇三  
 楊梅(四) 〇三  
 愈々大世帯を構える沖繩県庁 〇三  
 和解成立して神と仏の握手 〇三  
 宜野湾村白、黒の調停に県当局 〇三  
 遂に乗り出す 〇三  
 双方の誤解から出た感情の悪化 〇三  
 両派村民から資産所得を申告 〇三  
 義務教育国庫負担 〇三  
 官民のお歴々が県勢振興の講演 〇三  
 宜野湾の白黒があはや血の雨 〇三  
 夥しく移出した中頭の青物事業 〇三  
 与勝線県道編入 〇三  
 郡廃後の各郡教育部会 〇三  
 郡役所の廃止 〇三

郡道の売込みに中頭郡の委員 〇六  
 警察へ移官される兵事事務の講習会 〇六  
 資格よりも人物に重きを置く 〇六  
 沖繩県会五日から開催 〇六  
 辞令 〇六  
 沖繩県と大島とに国立療養所を 〇六  
 設置すべく交渉 〇六  
 鉱山労働者は福岡県が第一 〇六  
 炎熱の上空を三時間も飛ば 〇六  
 沖繩県から助成金継続を願ひ出る 〇六  
 全九州の郵貯と振替何れも激増 〇六  
 佐世保の沖繩往復飛行好成绩裡に終る 〇六  
 行政訴訟に負けた宜野湾村当局 〇六  
 山城正一氏当選祝賀会 〇六  
 沖繩の予算は依然緊縮方針 〇六  
 本県の面積がまちまち 〇六  
 必勝を期して：中頭予選大会 〇六  
 所得税調査員 〇六  
 九州連合教育会 〇六  
 今宿沖繩県知事蘇鉄地獄の苦をなめに 〇六  
 沖繩県へ 〇六  
 九州療養所を沖繩県は脱退 〇六  
 癩療養所の分割を諮問 〇六  
 蚕糸製造所を沖繩県へ設置 〇六

懐しの故国よいざさらば

懐しの故国よいざさらば 〇四  
 昭和二年(一九二七)  
 土木費の低資は半額貸付か 〇七  
 海外の出稼人は粒がよくなる 〇七  
 賃銭の事から沖繩人の罷業 〇七  
 青い目の人形沖繩へ着く 〇七  
 無電を活用し通信の渋滞を緩和する 〇七  
 沖繩県の糖業界に福音を齎らす 〇七  
 沖繩県知事更迭 〇七  
 態管内で最大の無線局 〇七  
 九州沖繩学校衛生第三回協議会 〇七  
 救済を好餌に五代議士を釣る 〇七  
 不知火 〇七  
 沖繩県救済の調査会を設け 〇七  
 不知火 〇七  
 鹿兒島市まで汽車を利用し 〇七  
 更に汽船で通送する 〇七  
 四百万円の低資を沖繩県に対して 〇七  
 融通救済することに決る 〇七  
 沖繩療養所に五百名を收容 〇七  
 切迫した県議戦、総選挙に備へ 〇七  
 警察官を異動 〇七  
 沖繩県会開かる 〇七

県会と当局が正面衝突し	三
二日間流会で押切る	三
議長目がけて掴みかかり	三
議場忽ち混乱に陥る	三
きのふ招集された市町村長会(第一日)	三
支部創立の準備を急ぐ沖縄県の政友派	三
断然政友会入党を拒絶した五代議士	三
新事業などは到底できず	三
沖縄県の大早魘	三
沖縄航路の運賃を値下し	三
司厨部をも改善する	三
沖縄県会二十八日召集	三
特別調査員を沖縄に派し	三
救済問題を調べさす	三
降った降った黄金の雨が降り	三
沖縄県民を喜ばす	三
全部払っても百万円残る	三
沖縄県会開かる	三
民政党側でも沖縄に支部設置	三
各地の通常県会	三
白昼横行する紳士泥を捕へよ	三
新糖搬出説で旧糖が暴落	三
沖縄県からの海外渡航者相変わらず多い	三
勸業費の一読会休憩後定数を欠ぎ	三

遂に流会	三
歳末だのに今に金が来ず	三
修正なくして原案を鵜呑	三
沖縄救済資金はなるべく年内に	三
支給の方針	三
昭和三年(一九二八)	三
総選挙結果	三
五十四箇町村議員の選挙を七月に行ふ	三
九州沖縄八県の課税の標準となる	三
地価の調査が全部完成	三
不景気に泣く九州沖縄の会社	三
九州、沖縄連合教育会	三
御大典記念に昭和会館を	三
九州、沖縄、山口社会事業協議会	三
義務教育費交付金市町村配当決定	三
中頭郡各村の徴兵検査本日より開始	三
町村会議員の選挙せまり候補者届出でに	三
つき沖縄県で疑義を生ず	三
沖縄県の天然痘予防	三
産業費審議の臨時沖縄県会開会さる	三
沖縄測候所の発信装置近く完成す	三
又も当局の杜撰を論難	三
新興沖縄に政戦今や酣	三

沖縄一中出発す	三
町村長の選挙で沖縄県をあげて	三
大変な騒ぎ	三
一中軍優勝	三
大に技を練り風雲をまつ	三
沖縄県の百合根	三
産業道路の順位土木官会議に諮問	三
電信電話事務拡張さる	三
沖縄県営鉄道の実情を詳細に調べ	三
買収の可否を決定する	三
年長によって村長を争ひ詰騒ぎまで	三
始める沖縄県の町村長改選	三
沖縄県中等校陸上競技会	三
旧琉球王朝の政庁を修繕	三
二教諭排斥の決議をなし	三
沖縄農林学校生騒ぐ	三
沖縄県学童成績展覧会	三
孤島苦を林業で救はんと	三
沖縄県計画を樹つ	三
教育界に生気を吹き込まんとす	三
登校者なく遂に同盟休校となる	三
通常沖縄県会招集	三
積極の中にも緊縮を加へ苦心の跡	三
歴然と現る	三

沖縄県議の郡市定員の変更案を提出	三
三年期産糖予想	三
をッなみに就いて	三
伊波桑江両先生の教を乞ふ	三
昭和四年(一九二九)	三
産業振興の根本方針を樹つ	三
首里や那覇市にも自動車全盛時代	三
六師団管下徴兵検査数	三
沖縄の甘薯大阪へ移出す	三
二十七名が比島へ移民	三
沖縄県議戦有権者確定	三
砂糖製造上の危険防止を完成	三
沖縄県の人々は食用米に不足を訴ふ	三
県外に飛出し荒波と戦ふ沖縄中等卒業生	三
左傾分子は掃蕩する	三
昭和四年度の有租地の動き	三
弊害を一掃し移民を周旋	三
本年度の低賃貸付額決定	三
那覇市に夜間中学校四月から開校	三
長袖着用はまかりならぬ	三
沖縄小学教員二十余名処分	三

県と町村の連絡電話	三
師範卒業生百余名過剰	三
青訓所へ入所勧誘	三
二十七名処分沖縄県の小学校教員	三
四年度の町村電話	三
沖縄県教育界大刷新断行	三
自動車通送宮崎、沖縄開始	三
渡航者の素質改善	三
学生や教員起訴猶予に	三
沖縄県下中等校生徒全部手ぶらで登校	三
中等学校の教科書取り急いで配給す	三
長袖を廃して全部洋服着用	三
大村沖縄間連絡飛行演習	三
攻撃機那覇着八日朝復航	三
県議候補者	三
九州、沖縄の貯金高一億二千余万円	三
那覇市から三飛機帰還大村航空隊へ	三
濃霧と悪気流に襲はれ二機	三
行方不明となる	三
行方不明の須田機救助さる	三
十島村に漂着中を	三
ひどい悪気流に右翼を折られて墜落	三
普選最初の沖縄県議員当選者	三
佐世保台湾間往復大飛行	三

正副議長は何人が選ばれる	三
衆議院より棄権が増加	三
政府の手持米を沖縄県へ払下ぐ	三
賀川豊彦氏近く沖縄県へ	三
家督遺産の相続税調べ	三
東洋製糖の待遇を調査	三
本省としては出来る限り尽した	三
技術のよい沖縄もぐり	三
若き病詩人、賀川氏が慰問	三
単独拝謁を賜り県政を種々御下問	三
出稼者の為に国立紹介所設置に努む	三
ランブの町村が九州に百十三ヶ所	三
味はひある琉球民謡	三
農村を唯一の安住郷に	三
移民教育の徹底を期す	三
社会思想批判論文懸賞で募集	三
旧憲支部復活か沖縄県の政界	三
夏休みを利用し自動車の操縦法や	三
発動機の手備知識をさづける	三
移民問題講演活字会	三
守屋知事の腹一つで県営運動場実現	三
人	三
薄給で不満足なら深く辞表を出せ	三
帰省学生の言動を注意	三

沖繩の勤務演習	九	産業道路改修に国庫補助は出さぬ	一〇	村芝居で賑ふ楽しい十五夜	一〇六
九州各地の面積と人口	九	沖繩県でも酒無し実行	一〇	東京で開く沖繩物産展	一〇六
熊税局管内地租の動き	九	つひに駄目県営運動場	一〇	政民両派が競争で芝居興行	一〇六
早くも総選挙準備	九	守屋知事腹を決めて根本的の綱紀肅正	一〇	不良の徒一掃す	一〇七
製糖工場一頓挫	九	沖繩県からの出稼者減る	一〇	竹細工奨励	一〇七
冗費節約から時間節約を励行	九	ワラ・サージ	一〇	消費節約の励行は国家当面の急務だ	一〇七
分蜜工場設置如何は国頭郡に大影響	九	広告(海外移民周旋業開始)	一〇	県の弾圧対抗策、種々協議した	一〇七
那覇水道委員水源地使用で	九	ダンス講習	一〇	沖繩政友支部	一〇六
宜野湾村当局と懇談	九	教室不足で間に合せの教育	一〇	御大典記念に昭和会館を建設	一〇六
疲弊を反映して財源は枯渇状態	九	中頭郡の村長連がけふ緊縮協議	一〇	毎月貯金し禁酒禁煙を行ふ	一〇六
伝染病流行の沖繩	九	中頭郡の予算緊縮	一〇	県外出稼悪募集人沖繩県で退治	一〇六
沖繩県の四年度市町村予算の総計高	九	中頭郡青年団代議員会	一〇	児童数と就学歩合	一〇六
本年償還の沖繩県下市町村債	九	各町村が一樣に学級の整理を断行	一〇	義務教育費八十三万円沖繩県に交付	一〇六
沖繩県道に並木を植える計画で	九	中頭郡町村長会予算緊縮協議	一〇	県民へ訴へる教化総動員の叫び	一〇六
苗圃を設置す	九	容易に埒あかない水源地使用問題	一〇	沖繩兵出発期日	一〇六
特設電話の各県割り当て数	九	東京三越で開く琉球美術工芸展	一〇	沖繩県救済に経済調査が必要	一〇六
明春東京で琉球工芸品展覧会	九	水源地使用問題	一〇	九州沖繩山口各県警察部長会議	一〇六
大絃小絃	九	実地調査に基き村会の態度を	一〇	教化委員講習	一〇六
水源地使用問題で那覇市、県にすがる	九	正当に決定したい	一〇	減俸で大恐慌	一〇六
ワラ・サージ	九	十月下旬教化運動沖繩県計画	一〇	沖繩県糖を三井が直移入	一〇六
貸地、貸家業は収入が増加	九	カフェー取締り沖繩でも準備	一〇	民政沖繩支部けふ発会式	一〇六
中頭郡各村で蚕業講演会	九	事業界にも緊縮風動き出す	一〇	御聖恩深し御救恤金五千元	一〇六
宜野湾村の女子青年幹部講習	九	陸軍廠舎の勤務演習終る	一〇	慎重審議の上聖旨に副ひ奉る	一〇六
九月一日を期して交通安全デー	九	広告(東自動車商会)	一〇	高らかに乙女の気焰を挙げて	一〇六

中頭女子青年団総会	二二	原案執行の諒解を得て	二二	五段歩以下の土地耕作者が	二二
中頭郡内の水稲採取	二二	守屋沖繩県知事帰る	二二	多数を占める沖繩	二二
黒糖の損害二百十万円	二二	沖繩県の開票期日愈よ内定す	二二	哀れ家庭貧困のため児童が生活戦線へ	二二
国語教授改革す	二二	琉球紹介の県物産館生る	二二	県の代執行で選挙会を開く?	二二
飯尾前知事が県会監視に来島	二二	広告(宮崎版の独立)	二二	水の説明が不徹底	二二
分蜜工場の設置促進運動	二二	教員初任給引下に反対	二二	宮城宜野湾村長停職を命ぜらる	二二
琉球工女雇入れの契約違ひで	二二	大阪朝日新聞社鹿児島・沖繩版の独立	二二	実色蕉苗圃経営者指定	二二
問題となる	二二	産業振興資金の償還延期を陳情	二二	県当局の命令を聴かず	二二
沖繩県会之居取締の抜剣問題で	二二	春に背いて教壇から失業群へ	二二	停職になった村長	二二
先づ質問大いに賑ふ	二二	出稼先からの送金七十万円内外	二二	飢饉を前に不安な二十ヶ町村	二二
政友派の申請は不許可となすか当局と	二二	砂糖も泡盛酒も不景気風に大痛手	二二	知事の命令だから已なく開く選挙会	二二
盛んに押問答	二二	淘汰教員の動静を内偵	二二	中頭郡に於ける男女青年幹部講習	二二
航路の改善に当局の努力を望む	二二	社会科学事件	二二	教員の風紀問題や教育の振興を協議	二二
沖繩のひどい疲弊には驚いた	二二	教員初任給の引下げ問題で賑ふ	二二	宜野湾村の松並木保存	二二
沖繩県内の郵便送込にトラック使用	二二	沖繩県の結核予防日	二二	沖繩教員の思想を調査	二二
早朝から会場道は車馬止めの大混雑	二二	宜野湾産産組合監事改選	二二	賃銀値下から構工の罷業	二二
衛生思想を県民に徹底させよ	二二	農村の疲弊は学校教育に大影響	二二	那覇上水道促進させる	二二
労農主義宣伝秘密出版暴露	二二	わが可愛い娘を盛んに売り飛ばす	二二	台南製糖の原料買収条件発表さる	二二
沖繩神社保存維持費一万七千円交付	二二	産業振興資金の回収難で裁判沙汰	二二	農家の損失は二十万円に上る?	二二
電話事務開始	二二	守屋沖繩県知事排斥の烽火揚がる	二二	台南社側の一蹴に会ふ	二二
細民の負担軽減が却って県税負担に	二二	伊礼支部長遂に辞任を申出で	二二	吉田学務部長らが百万諒解に努む	二二
昭和五年(一九三〇)	二二	内務、学務両部長も糺弾の	二二	財政困難から償還延期を陳情	二二
南米行移民運賃	二二	檜玉に挙ぐ?	二二	宜野湾村では拒絶の意向	二二
	二二	先づ島民の生活改善が急務	二二	水源地使用の絶対反対を答申す	二二

水源地使用反対を決議	二二五	沖繩県産糖高予想発表	二二四	土地収用法適用の腹を決め	二二五
台南製糖の原料引上を要望	二二五	ブラジル移民入国査証の禁止	二二四	公益事業認定を申請	二二五
那覇上水道の低資融通は	二二五	愈々解除	二二四	成績頗る良好の本年春蚕用の蚕種	二二五
正式に決定を見る	二二五	義務教育費町村割当決定	二二四	保安林復旧の急務を力説	二二五
沖繩県下の金融状況	二二五	政民両派の候補者はほぼ決り	二二四	男女中等校の排籃球競技大会	二二五
那覇市上水道の水源地使用近く許可	二二五	官有水源地の使用許可水量が諮問案の	二二四	那覇上水道近く好転か	二二五
製糖期を目前に控え農村金融	二二五	水量より多い	二二四	小額資金の貸出を開始	二二五
極度に行詰る	二二五	県下青年団大会で禁酒、禁煙の	二二四	沖繩社会事業協会産声を挙げ	二二五
溢れ出る師範卒業生来年三月も	二二五	実行を決議	二二四	農漁村資金起債を議決	二二五
教員過剰	二二五	知事の許可した水量は適正	二二四	沖繩各校の御真影伝達式	二二五
知事に面会し反対意見を述べ	二二五	沖繩県の失業者八百六十八人	二二四	徴発馬に繰入れらるか、沖繩県の馬匹	二二五
那覇市上水道の水源地、使用許可さる	二二五	台南社二工場存続の模様	二二四	沖繩県の米実収高	二二五
一日も早く水道の水を市民に	二二五	県会に挟り興味を引く	二二四	沖繩県下の黒糖七銭台を割る	二二五
飲ませ度い	二二五	中頭郡県議補欠選挙	二二四	沖繩県下第一回武道大会盛大に挙行	二二五
甘蔗植付別作付反別	二二五	俸給引下げや高給校長の整理	二二四	沖繩汽船会社いよいよ解散か	二二五
中頭郡の水稲採種圃	二二五	民政派でも候補者決る	二二四	沖繩県農会の原山勝負実施方法を改正	二二五
十二ヶ所に水源築造	二二五	天願氏の令弟を立てて政友の弔合戦	二二四	琉球特産品即売会、本年も各地で	二二五
ブラジル移民は依然入国を禁止さる	二二五	中頭郡県議補選投票終はる	二二四	旧正月を控へ国県産愛用週間	二二五
昨日同時に挙行された中頭男子	二二五	高江須氏当選	二二四	沖繩県下の徴兵検査日割決まる	二二五
島尻女子青年団総会	二二五	守屋知事排斥問題で警察部長気色ばむ	二二四	熱帯系木材を全国へ紹介	二二五
中頭郡女子青年団の連合競技大会	二二五	昭和三十六年(一九三二)	二二四	師範専攻科の入試を変更	二二五
中頭郡の県議補選	二二五	無格七社の昇格を運動	二二四	本年度に二宮郷社に昇格	二二五
中頭郡県議補選期日告示さる	二二五	肥料配合所設置に決る	二二四	沖繩水産校の資格認定は認可の見込み	二二五
教員給料不払が沖繩県下で頻々	二二五		二二四	受験地獄は緩和される	二二五

井野沖繩知事初巡視	二二五	砂糖入札の方法を変更	二二四	未納業代の徴収苦肉策	二二五
財政の都合で家賃をとる	二二五	国防思想振興の講演と活写	二二四	沖繩県未曾有の災害復旧事業	二二五
海人草を用ひ蠅虫を駆除	二二五	琉球友禅や花染手拭の宣伝即売会	二二四	社会事業大会本県の提案	二二五
入学試験場に学務部長が乗込み	二二五	現職教員から休退職者を出し	二二四	九州、沖繩の鉱産額年間	二二五
副業品を出陳し南国色調を紹介	二二五	師範卒業生を配置か	二二四	一億三千余万円	二二五
波ノ上宮の記念道路に石燈籠を建設	二二五	学校だより	二二四	沖繩県教員にまたも波瀾	二二五
入札規約を作り公定相場を改善	二二五	政党色を排斥するやう各市町村へ通牒	二二四	甘蔗を荒す蠅虫駆除に沖繩県令制定	二二五
春を前に動く学務部長	二二五	戒飭処分から訴願を提出、宜野湾前村	二二四	臨時沖繩県会召集さる	二二五
実補教育国庫補助	二二五	長	二二四	沖繩県下最初の極左傾運動事件	二二五
沖繩県下中等校長会	二二五	国へ帰り久振りに孝行ができる	二二四	沖繩県参選挙終る	二二五
名地方課長として鳴った人	二二五	黒糖即売会東京で催す	二二四	各方面の知識を集め産業調査会を設置	二二五
井野知事が青年団員を招き	二二五	井田事務官和歌山へ栄転	二二四	減俸に会ふ沖繩県の人々	二二五
抱懐する意見を聴く	二二五	鯉漁業の餌生魚輸送に成功	二二四	西山氏の博士論文通過	二二五
沖繩県蚕種同業組合の設立認可さる	二二五	教員の過剰から三分の一は配置難、休	二二四	沖繩県衛生課から二人の日米博士出づ	二二五
中小商工業者生産品展の	二二五	退職者は六十二名	二二四	災害土木費補助は許可	二二五
沖繩県下出品者決る	二二五	沖繩県の産業調査会	二二四	大豆改良栽培を普及沖繩県で	二二五
井野知事に招待される青年代表決る	二二五	米穀需給状況調査	二二四	千三百余匹のハブの頭警察に持込む	二二五
何れも大乗気度出品を申合	二二五	バナマ帽製造活況、編賃も昂騰	二二四	沖繩県献上の珊瑚御嘉納	二二五
六年度内に完成の方針	二二五	台南製糖大整理	二二四	沖繩農林又も盟休、結束はかた	二二五
新沖繩県学務部長赴任	二二五	相変らず入超を続く沖繩県貿易	二二四	琉球松を記念物指定	二二五
沖繩神社改修工事の補助増額を申請	二二五	深刻な不景気から入宮を望む壮丁	二二四	父兄会により蒸し返さる	二二五
海外移住者の送金が減る	二二五	恩給の増加に悩む沖繩県	二二四	真山校長の処分要求	二二五
甘蔗の害虫ワタガ虫が群生	二二五	産業振興の財源	二二四	沖繩県勢振興計画案を掲げて	二二五
那覇各航路の国営建議案	二二五	公務員の犯罪激増	二二四	井野知事きのふ上京	二二五

- 沖繩農林盟休事件形成は悪化……………一五三
- 沖繩黒糖の販路を開拓……………一五三
- 師範生徒給費制廃止になれば……………一五三
- 砂糖課税査定高著しく減収……………一五三
- 判事連も全部罹病公判が開けぬ……………一五三
- 患者一万人突破列車も運転不能に……………一五三
- 小嶺那覇市長の収賄、瀆職事件発覚……………一五三
- 確証の前に遂に事実を認む……………一五三
- 沖繩県振興計画特別調査会……………一五三
- 民政党内に設ける……………一五三
- 井野知事以下職を賭して……………一五三
- 実現に向ひ猛運動……………一五三
- 黒糖製造時期を今年から早める……………一五三
- 内務省から調査研究に細谷博士来県……………一五三
- 井野知事の同情の現はれ……………一五三
- 10-4沖繩一中堂々勝つ……………一五三
- デング熱患者十万人を超ゆ……………一五三
- 政治的の事情伏在か……………一五三
- デング熱患者救護費民間から寄附……………一五三
- 次は大蔵省へ愈よ時を越した……………一五三
- 沖繩県振興計画案……………一五三
- デング熱救済で遂に倒産の憂目……………一五三
- 那覇市の水道使用料……………一五三
- 防疫施設資料にデング熱を詳細調査……………一五三

- 新検事正が疑獄事件取調……………一六二
- 国庫旅費を使ひはたし殆んど……………一六二
- 出張停止の形……………一六二
- 崎山代議士らが村民をせん動……………一六二
- 沖繩県振興促進期成会実行委員会……………一六二
- 那覇市で市街模倣戦、来る二十日前後……………一六二
- に……………一六二
- 平良助役ら四氏も召致、諸点を聴取……………一六二
- 沖繩県下方面委員を増員……………一六二
- 沖繩県下の衆議有権者……………一六二
- 沖繩県の労働者が大挙して南洋へ……………一六二
- 特設防備隊中城湾へ……………一六二
- 第一艦隊中城湾投錨……………一六二
- タタるデング熱……………一六二
- 小嶺前那覇市長遂に収容さる……………一六二
- 拡大する那覇市上水道疑獄事件……………一六二
- 糖業、工業助成金天引して交付……………一六二
- 艦隊中城湾投錨……………一六二
- 忌はしい那覇の二つの疑獄事件……………一六二
- 沖繩県下の象皮病患者……………一六二
- 沖繩県勢振興実現の運動……………一六二
- 侍従武官らさのふ帰京……………一六二
- 二氏の対質訊問……………一六二
- 小嶺、小倉両氏遂に起訴さる……………一六二

- デング熱予防に井野知事の名案……………一八三
- 内台連絡飛行機に搭載した本紙を……………一八三
- 早速配達……………一八三
- 運動員を上京さす沖繩県勢振興促進の……………一八三
- ために……………一八三
- 世の中は矢張り就職難……………一八三
- 中心人物寺方は南洋に逃走した……………一八三
- 疲弊せる沖繩を「救へ」の声……………一八三
- 県下に漲る……………一八三
- 伊礼県議収容さる……………一八五
- 沖繩県振興費三百二十六万四千円……………一八五
- 今後は大蔵省当局へ猛運動をなす……………一八五
- 沖繩県産業振興費要求の貫徹に猛運動……………一八五
- 沖繩県民の浮沈に關す県政振興案の……………一八五
- 実現配慮方……………一八五
- いろいろな内幕がしだいに暴露す……………一八五
- 沖繩招魂祭非常の賑ひ……………一八五
- お可哀相だ！この悲惨な児童たち……………一八五
- 無資格の教員整理……………一八五
- 沖繩県を！何卒救って下さい……………一八五
- 悲壮なる猛運動……………一八五
- 小学校長から一斉に電報……………一八五
- 沖繩の鰹漁業前途は暗澹……………一八五
- 失業者救済工事……………一八五

- 哀れ！若い男女の精神病者が……………一六九
- 五百二十名……………一六九
- 県民の四分の一は蚊帳を持って居らぬ……………一六九
- 八十余ヶ所から一斉に陳情電報……………一六九
- 農林省側が猛烈に反対沖繩振興案……………一六九
- 保釈出所か……………一六九
- 沖繩県学務部愈も廃止に決定……………一六九
- 七百人の開眼治療……………一六九
- 県勢振興運動経過、知事から説明……………一六九
- 俸給を貰はぬ教員達が県当局に……………一六九
- 窮状を懇ふ……………一六九
- 授業中に卒倒者続出……………一六九
- 民政系警官は片っ端から整理……………一六九
- 沖繩共産党事件公判……………一六九
- 神寿筑後両船南洋へ出帆、移民を乗せ……………一六九
- て……………一六九
- 沖繩県へ綿を飾って帰る……………一六九
- 看守五名の募集に応募百七十八名……………一六九
- 沖繩県会二十日目……………一六九
- 昭七年(一九三二)……………一六九
- 諸常食児童が一万五千余名に上る……………一六九
- 沖繩県下の選挙有権者……………一六九
- 十九ヶ町村は俸給不払ひ……………一六九

- 候補者の運命を秘めた謎の……………一七〇
- 投票函は開かれた……………一七〇
- 各候補者別得点表……………一七〇
- 沖繩県各候補得票……………一七〇
- 那覇市の水道工事着々と進む……………一七〇
- 鹿児島沖繩出身の戦死負傷者……………一七〇
- 佐久那多利考(一)……………一七〇
- 佐久那多利考(二)……………一七〇
- 佐久那多利考(三)……………一七〇
- 佐久那多利考(四)……………一七〇
- 現職警官が村議夫妻に暴行……………一七〇
- 島袋上等兵死亡……………一七〇
- 水源地及用地に収用法を適用……………一七〇
- 愈も最後の手段として土地収用法を適……………一七〇
- 用する……………一七〇
- 水道用地の買収妥協案……………一七〇
- 水源地買収に一縷の光明……………一七〇
- 那覇市貯水池地鎮祭……………一七〇
- 地主と当局の地価に懸隔……………一七〇
- 水道用地買収に応じない……………一七〇
- 字大山と真志喜……………一七〇
- 上海事変の勇士……………一七〇
- 時事問題講演会で白黒両派對峙し……………一七〇
- 血の雨降らんとす……………一七〇

- 駐在巡查を脅迫し旅館に投石……………二〇三
- 離島が高い沖繩県下町村の戸数割……………二〇三
- 土地収用法適用か……………二〇三
- 総額実に……百六十万円に上る……………二〇三
- 益踊りの賑ひ大乱闘と化す……………二〇三
- 史蹟天然記念物に佐多旧薬園と……………二〇三
- 宜野湾街道の松並木……………二〇三
- 二百余名の村民大挙市役所へ……………二〇三
- 那覇の水道疑獄事件の予審集結……………二〇三
- 一斤余の石が飛び遊戯中の子供惨死……………二〇三
- 水が生命と宜野湾村民県へ反対陳情……………二〇三
- 那覇市の水道工事着々と進捗……………二〇三
- 昭和八年(一九三三)……………二〇三
- 国防用海軍機と高射兵器献納……………二〇三
- 小田君愛国運動の弾圧を語り……………二〇三
- 南北両軍必死の攻防……………二〇三
- インフレに煽られ女工群の遠征……………二〇三
- 童心戦く入学試験県下一斉に施行……………二〇三
- 本県出身兵士の慰問……………二〇三
- 入学試験にも非常時の反映……………二〇三
- 愛国沖繩号の晴の命名式……………二〇三
- 非常時局を反映し海軍志願兵激増……………二〇三
- 意気物凄く戦捷記念祭……………二〇三

劇聖玉城朝薫を偲ぶ	三二
報国機の献納式四月中旬に挙行	三二
連合艦隊来航を機に献納式挙行	三一
海軍志願兵	三三
三殿下——御款待の準備	三三
泡盛酒の醸造法暹羅国のと全く同一	三二
六万県民待望の振興計画案	三二
学校給食効果は百%	三二
連合艦隊中城湾来航	三三
無敵艦隊十三日中城湾へ	三三
無敵艦隊中城湾へ	三三
波上神社の三百年祭	三三
首里、那覇両市御視察伏見宮殿下	三三
海軍数十機が祝福の銀翼乱舞	三三
海の勇士らの歓迎方法決る	三三
割れ返る首里、那覇の賑ひ	三三
辺土にまでも有難き大御心	三三
琉球の唐手武道種目に編入方申請	三四
沖縄県議選挙の結果	三五
沖縄県会議員当選者	三五
十六名を獲得して政友会過半数を制す	三五
新顔が多く清新味加はる	三六
同情会に絶る失業労働者	三六
前那覇市長に懲役二年の求刑	三七

沖縄、内地間に無線電話を開設	三七
松保丸の謎の金塊	二七
沖縄県代表榮譽の優良児	二八
那覇市水道に又も取水の断り	二八
十四歳未満の小女郎虐待防止法で取締る	二八
献納器格納の兵器庫	二九
沖縄文化協会いよいよ生れ出づ	二九
九州中等水泳沖縄県選手	二九
子守しながら通学する児童	三〇
九月一日から使用料徴収	三〇
退営延期を命ぜられた沖縄の短現兵	三〇
聖慮畏し暴風禍の沖縄県に御救恤金御下賜	三〇
虐待防止法実施と沖縄県の方針	三〇
御救恤金御下賜	三〇
重ね重ねの恩命極力聖旨に副ひ奉る	三〇
沖縄県の蚕種製造高躍進を示す	三一
勤務演習隊沖縄引揚げ	三一
葬列廃止の運動を起す	三一
露油、沖縄へも	三一
沖縄県女子陸競	三一
沖縄の産組著しく躍進	三一
晴れの凱旋沖縄出身兵十二名	三一

碎米の輸入を許可されたいと沖縄酒組陳情せん	三三
沖縄県の国防兵器庫	三三
後世に貽る国際的佳話	三三
農漁山村更生の奥義を検討する	三三
沖縄耕地協会創立会	三三
不良に傾く沖縄県下の要注意少年	三三
沖縄一勝す	三三
移民教育機関として移民会館	三三
沖縄振興費の一部承認さる	三三
ロープ原料の竜舌蘭調査	三四
琉球漆器声価あがる	三四
沖縄県の水産共進会	三四
凱旋兵や除隊兵	三四
官民が挙って沖縄県出身兵の歓迎	三四
お宮の復興	三五
那覇に建設の愛国兵器庫	三五
那覇より	三五
素晴らしい人出	三五
沖縄県の兵器献納式	三五
片手落ちた凱旋の海軍勇士憤慨	三六
波上神社に大國旗	三六
那覇産業神社	三六
沖縄県連合婦人会組織する	三六

昭和九年（一九三四）

那覇より	三三
沖縄匡救事業費補助は大削減か	三三
教護連盟が働出した	三三
旧正儀礼の改善通牒	三三
思想問題対策研究会ちかく創立	三三
心細い農家の報酬	三三
ひらく宝庫	三三
大國旗の掲揚式挙行	三三
国史教育の振興を計る	三三
琉球女の服装改善	三三
自由入糖制を区域制に改む	三三
愈よ出ました沖縄早甘藍	三三
外地米の統制硬化沖縄県は大打撃	三三
自給自足主義で移入品を防圧する	三三
南方諸島の貨物誘致	三三
沖縄女性の服装愈よ発表さる	三三
沖縄の早熟キャベツ京阪に出廻る	三三
糖業改良奨励費	三三
明治維新と沖縄県は密接な関係がある	三三
沖縄博物館愈よ建設	三三
程順則を聖廟に二百年祭記念に	三三
無い袖は振れず恩給の支払停止	三三

沖縄県の模合一戸平均五口	三五
ペルリ来航記念式	三五
沖縄の蔬菜出盛る阪神方面へ	三五
国立織物検査所一日から開設	三五
延べ百三十万人の就労人夫を減少	三五
海外協会会館落成五月上旬挙式	三六
沖縄県下道路網急速に発達	三六
振興への本格的調査	三六
学校給食費に三万円、沖縄県の割当決る	三六
沖縄文化向上に郷土協会生る	三六
開洋会館落成を機に移住組合を新設	三六
小学教員の服装を制定	三六
大衆飲料としてハワイに洋行	三六
日曜を利用して農民訓練日	三六
沖縄振興案は十分検討したい	三六
全議案鶴呑臨時沖縄県会終る	三六
県農会へ愈よ嫁入り沖縄砂糖同業組合	三六
沖縄航路改善を中央に陳情	三六
鹿兒島県側と提携して猛運動	三六
沖縄県へ政府米払下	三六
国営航路実現を目指し愈よ積極的に活動	三六
大会の幕開く奥武山原頭に展ぐ	三六

球技の豪華	三九
航路改善県民大会氣勢を挙ぐ	三九
輝やく優勝旗水産軍の手に帰す	三九
金を強奪さる	三九
虹の気焰	三九
排日のブラジルへ堂々乗出す	三九
沖縄県でも文化講習会	三九
分蜜糖原料甘蔗搬入奨励金	三九
大谷光暢師各所を視察	三九
漁村更生に漁民道場	三九
沖縄に郷土博物館いよいよ具体化	三九
くば団扇ロンドンへ洋行	三九
脳炎地獄下の恐怖死亡二百を突破す	三九
退隠料条令改正	三九
出る出る泡盛	三九
沖縄雑信	三九
被害総額五万七千余円	三九
沖縄の黒糖を県外へ直移出	三九
漸次自給自足の域に進む沖縄県の米作	三九
蔗の苗争奪	三九
被害総額実に十万五千余円	三九
これは皮肉未曾有の豊作	三九
獄中から転向書	三九
クリップ	三九

渡航手続きなど一切を無料で	二四四	相次ぐ沖繩の教育界不祥事	二四九	那覇港の拡張は軍事上から必要	二五八
十年度沖繩振興事業費四百四十万余円	二四四	那覇—南洋間直航船	二四九	沖繩青年団で「青年新人」刊行	二五八
フィリピンへ移民群の洪水	二四四	御行儀の悪い沖繩の渡航移民	二五〇	人夫の重傷	二五八
琉球織物をモダン化し木綿を絹に	二四四	躍進の沖繩蔬菜	二五〇	豚から人へ人から豚へ	二五九
中央に進出	二四四	満期兵は殆ど出稼ぎ	二五〇	帝都で歓迎	二五九
沖繩生れのバナマ帽	二四四	予算はとつたが船は港で立往生	二五〇	早くて安い神戸廻りに凱歌	二五九
沖繩の暴風被害	二四四	県外持出し絶対お断り琉球歴代宝案	二五〇	沖繩黒糖の買付始まる	二五九
郷土の誇り松並木	二四四	石井沖繩司令官県民の反感を買ふ	二五〇	名譽職にも税の滞納が多い	二六〇
鉄道純益金を定期預金に	二四四	議案そこ除けパンフレット問題で熱戦	二五〇	沖繩六勇士の表彰申請書届く	二六〇
郷土博物館	二四四	県教育会でも決議文提出か	二五〇	金鶏勲章の勇士思出の軍事講演	二六〇
有望視される沖繩移出牛	二四四	陸、海両相に意見書を提出	二五〇	沖繩航路は黒糖で満腹	二六〇
憂ひは深し飢餓地獄迫る	二四四	沖繩の躍進振りさすがは移民県	二五〇	晴の沖繩馬上海近づく	二六〇
満蒙目指し沖繩茶進出	二四四	妥協漸くなり議案は鴉呑	二五〇	沖繩に多い結核死亡者	二六〇
郷土の誇り琉球並木	二四四	昭和十年(一九三三)	二五〇	ベルー移民の二世教育	二六〇
予想される将来の同土討	二四四	諸を食へ藜を作れ	二五〇	沖繩特有の鳥獣を生捕り	二六〇
他国へ修業に	二四四	政争を解消平和郷に帰る	二五〇	沖繩の警戒	二六〇
女工王国	二四四	カトリック教徒伯国移民を陳情	二五〇	国庫教育費を教員に直接支給	二六〇
虐待に堪へかね血判の非常信号	二四四	石井司令官声明書発表	二五〇	沖繩に義勇軍統々組織さる	二六〇
沖繩砂糖の取引を改善	二四四	全国へ黒糖の進出	二五〇	冠婚葬祭の簡易化が急務	二六〇
沖繩の七社県で改築	二四四	非常時に情ない沖繩県の壮丁	二五〇	学童に唐手	二六〇
沖繩漆器がアメリカへ	二四四	広告(愈よ明日から朝、夕刊を発行)	二五〇	沖繩中等校の県外修学旅行	二六〇
知事踏止り復活を要求	二四四	身体検査は厳重に行ふ	二五〇	無教育者が多くて苦情	二六〇
工芸協会を沖繩で組織	二四四	ハワイへ初移民あれから五十年	二五〇	政争を避けて無競争推薦	二六〇
中頭・島尻両郡に防風林	二四九		二五〇	今秋から漁民道場	二六〇

他府県から教員の申込み	二六三	沖繩県下の市町村史編纂	二六九	共同店のお蔭	二七五
年間に四十万円	二六三	青年学校指導員に軍隊教練の再教育	二六九	バスには勝てぬ?!	二七五
学校給食費に二万余円配当	二六三	沖繩県漁夫六百名が台湾で組合と抗争	二六九	沖繩県の人口今一と息で六十万	二七五
沖繩の誇り学校給食全国に紹介	二六三	南洋漁業を独占	二七〇	謝花昇氏の銅像除幕式	二七五
全国に魁けて村の更生競争	二六三	珊瑚漁場の縄張り争ひ	二七〇	沖繩最初の漁民道場	二七五
琉球音楽の「特殊譜」を發明	二六三	校長連が合宿して日本精神を鍛錬	二七〇	沖繩最新の漁民道場	二七五
香しくない壮丁の体格	二六四	「なべ」を花子に続々と内地化	二七〇	満洲国へ新航路開拓を機に	二七五
文化向上をめざし沖繩に社交クラブ	二六四	条件つきで円満解決	二七〇	沖繩物産の進出	二七五
祝福される珊瑚景気	二六四	花嫁軍も交り移民隊出発	二七〇	政争愈々尖鋭化の虞れ	二七五
農家一戸当り322円の借金	二六四	移民に拓く南方の新天地	二七〇	伐る、伐らせぬ県当局の内輪採め	二七五
受難の給料不払に教員のSOS	二六四	江文殺到の沖繩物産	二七〇	自給肥改良増産協議会	二七五
暗影を投ぐ結核の増加	二六四	海外移民から電報送金が殺到	二七〇	県農会主催甘藷共進会	二七五
特産品の大飛躍	二六四	南方の麒麟児晴の神宮競技へ	二七〇	功績を永へに……謝花氏の銅像除幕	二七五
自慢の学校給食素晴らしい効果	二六四	断然多い県外出稼	二七〇	農山漁家の借金二千四百余万円	二七五
沖繩振興計画年度振興予算	二六四	選挙の宿弊排撃肅正の聖道へ	二七〇	重要物産支那→琉球→薩摩「孟宗竹」	二七五
四百六十万円要求	二六四	娘取引の防止	二七〇	移植二百年	二七五
新天地の開拓に勇躍・ペルーへ	二六四	儲けてお出でよ移民船は朗らか	二七〇	全世界に沖繩村を建設	二七五
教師を動員し郷土史を編纂	二六四	スポーツ沖繩の跳躍	二七〇	昭和十一年(一九三六)	二七五
沖繩に唯一の大学も設置	二六四	ラヂオで標準語を普及	二七〇	料亭あがつたり	二七五
御朱印船以前に琉球商人の海外雄飛	二六四	海外へ進出の颯爽たる花嫁群	二七〇	南島に楽園建設	二七五
閉口する沖繩訛読み方を改めよ	二六四	明るくなる沖繩の農村	二七〇	債鬼躍る旧歳末近づく	二七五
沖繩県知事の更迭重要意味を含む	二六四	大演習御警衛光栄の警官	二七〇	主張貫徹を期しわが全権を鞭撻	二七五
花嫁さんも交り勇ましく南米へ	二六四	阿波連巡査と決る	二七〇	沖繩県下の有権者総数	二七五
写真結婚の花嫁見知らぬ夫の許へ	二六九	沖繩から東京へその日に郵便配達	二七五	沖繩移民に関する協議会開く	二七五



沖繩出荷団体に對滿貿易を勧誘	二六二
沖繩漁民の品性漸次向上は嬉しい	二六二
火蓋はきられた	二六二
沖繩の黨選強調日	二六三
選挙事務主任会議	二六三
万難を排して正しき一票を行使	二六三
十四万四千余名沖繩の有権者確定数	二六三
未だ見ぬ夫の幻を抱いて乗船	二六四
ペルー移民の補助を中止	二六四
待遇改善を叫び、"沖繩連自"の	二六四
運動手罷業	二六四
政戦今や白熱	二六四
軍人魂で悪弊を打破	二六四
下男奉公させ農業知識を注入	二六五
借金しても郷里へ送金	二六五
県外出稼ぎ女工最近再び激増	二六五
呆然、罷業団参る	二六五
"当選の喜び"語る	二六五
沖繩、濫立の政友惨敗	二六六
転向青年に朗かな春甦へる	二六六
沖繩各候補得票数	二六六
俸給が貰へず飢を忍び教壇へ	二六七
会議の中心は大本教の徹底取締	二六七
琉球の"くみ踊り"青葉の頃、帝都で	二六七

公開	二六七
姓名が難解だ読方を統一せよ	二六七
沖繩女子青年団総会	二六八
学童の玩具用に沖繩馬十五頭、帝都へ	二六八
内台空路中継地那覇飛行場竣工	二六八
沖繩県下兵事主任会議	二六八
芋をかじって露命をつなぐ	二六八
御守の中に王仁の髪の毛	二六八
空腹に堪へぬと猛烈な転任運動	二六八
博物館開館式	二六九
国際的航空の港那覇大飛行場	二六九
史蹟記念物の案内書を編纂	二六九
生産費三分の一：製糖釜改良に成功	二六九
沖繩の三恩人を永久に讀ふ	二七〇
銀翼を輝かせてダグ機那覇へ着陸	二七〇
細民に救ひの手	二七〇
朗かな春の移民船	二七〇
那覇市に観光協会設立	二七〇
沖繩重要物産の地位を保持	二七〇
被同伴者の渡航今後は厳禁	二七〇
"先生がお気の毒"可憐・姉妹が	二七〇
貯金を送付	二七〇
県下警察署長異動	二七〇
ボルネオ遠征の沖繩漁民団	二七〇

那覇教難所誕生	二九二
清水谷主義の一本槍で邁進	二九二
転向者を招き懇談会開く	二九三
品質を吟味して軍隊進出に全力を注ぐ	二九三
新教育法を樹て県民精神を作興	二九三
農村の救ひ主	二九三
職員苦心遂に難解"沖繩語"を駆逐	二九四
公式の宴会は遊廓、貸座敷で	二九四
開くべからず	二九四
矢鱈に"豚肉"を食ふな	二九五
左傾思想を徹底的に根絶	二九五
まさに"黒糖"時代	二九五
沖繩県移民の活躍	二九五
精神文化運動	二九五
類勢を挽回し驚異的躍進示す	二九六
満洲国へ進出泡盛や蔬菜類	二九六
孤島苦を解消文化氾濫の沖繩へ	二九六
ブラジル移民の制限撤廃に曙光	二九七
琉球の秘書「歴代宝案」新嘉坡へ	二九七
国家的貢献実大なる糖業日本の	二九七
劃期的発展	二九八
国防上の生命線	二九八
糖業界の驚異	二九八
輝く慈愛旗伝達	二九八

輝く慈愛旗伝達真志喜託児所に	二九九
沖繩と大島は国防上さらに重要味加ふ	三〇〇
沖繩の癩患者へ温い慰めの触手	三〇〇
壮烈な防毒演練	三〇〇
漁夫の不法行為続出日比親善を阻害	三〇一
地元より南洋へ	三〇一
ペルー移民の渡航しばらく待て!	三〇一
移民群、失望落胆	三〇二
那覇で放送試験	三〇二
郷土文化を誇る博物館落成式	三〇三
びくともせぬ颱風瓦	三〇三
経費の関係で飛行警察はだめ	三〇三
農業実習に留学生派遣	三〇三
見事な燈火管制	三〇三
制限緩和の見込み	三〇三
学校を開設し優秀移民を養成	三〇四
楽しい夢破るブラジル渡航禁止	三〇四
完璧を期す、沖繩連隊区司令部に	三〇四
軍医、看護兵を常置	三〇四
天然記念物の松たはる	三〇四
早婚の国沖繩	三〇四
鋤、鉄かついで先生達が農事訓練	三〇五
二百年前すでに沖繩に選挙法	三〇五
護国の英霊祀る招魂社を建設	三〇五

百四十五名を救助、プラタス島近海で	三〇五
遭難の沖繩漁民	三〇五
珍奇な名は改めよ	三〇五
寄宿舎を建設、沖繩県立一中に	三〇六
赤字の県鉄バス進出に脅威	三〇六
転向教員に蘇る春	三〇六
アルゼンチンが移民規則改正	三〇六
孤島、ラサ島を観る	三〇六
外人の入国を厳重に取締る	三〇七
真の沖繩の姿を内外に宣伝	三〇七
中等校の先生を派遣	三〇八
闘牛をやめて仲よく農事研究	三〇八
琉球の遺蹟首里城を調査	三〇八
邪教ユタを厳重取締る	三〇八
前科一犯の牛泥賭博開帳し検挙	三〇八
経済更生は墓地の改善から	三〇九
世界各地に沖繩村	三〇九
準備教育は禁止	三〇九
一ヶ月の訓練良質移民を送る	三〇九
便宜を与へて学力向上に尽せ	三〇九
人材養成機関造士会を創設	三〇九
若い女性も混り花やかな色彩	三〇九
俸給不払は根絶お次は学級増加	三〇九
海外出稼人を選挙人名簿から	三〇九

削除に決定す	三一一
増築中の新校舍轟然全壊	三一一
甘藷の欠乏が心配	三一一
沖繩県の招魂祭	三一一
牛泥棒に懲役一年判決言渡さる	三一一
南洋も失業地獄だ	三一一
観光沖繩を宣伝	三一一
沖繩に残る古代家族制度研究	三一一
沖繩八勝投票!!	三一一
二県議決る	三一一
県外出稼人の保護を決議	三一一
沖繩県の移民倍加	三一一
沖繩振興費獲得は成功	三一一
早すぎる年賀状	三一一
南海の離島と声の握手	三一一
沖繩の民謡を全国へ放送	三一一
出稼女工が持帰る結核	三一一
売られゆく少女	三一一
沖繩全島に無電網	三一一
内地、沖繩間の無電晴れの開通式	三一一
無線電話開通(那覇・鹿児島間)	三一一
記念スタンプ	三一一
家族研究に貴重な部落	三一一
戸籍法違反全国一?	三一一

譽れの入賞……………三八

昭和十二年(一九三七)

“女性連盟”結成か……………三二  
 筆答試問廃止……………三二  
 守礼門から警を発見修理中に……………三二  
 受信テストはまさに満点！……………三二  
 出稼者の世話を一手に引受ける……………三二  
 沖縄県教育会創立記念式……………三二  
 照明と農村電化……………三三  
 同胞愛に燃ゆ、義金を集め飢餓村民へ……………三三  
 博士を偲ぶ九十年祭を執行……………三三  
 沖縄の武徳殿本月中旬着工……………三三  
 難解の姓名統一……………三三  
 粗食が体質劣弱の原因だ……………三三  
 琉球情緒満喫……………三三  
 中、小学校の正科に唐手を……………三三  
 沖縄移民大もて県外から注文頻り……………三三  
 移民奨励座談会沖縄県下で……………三四  
 沖縄県民は豚がお好き……………三四  
 早くも言論戦候補者は定員の二倍か……………三四  
 税制の改革と交付金制度確立……………三四  
 祖父苦闘の地で限なく遺蹟を訪ふ……………三五  
 肅正選挙の蓋開かる!!!……………三五

二市四郡の投票成績……………三五  
 古豪勝つ？……………三六  
 沖縄県の当選者……………三六  
 沖縄県都市別得票数(第一日終了分)……………三六  
 郡市有権者数……………三六  
 県会議員候補者……………三六  
 第二十回衆議院議員総選挙……………三七  
 農村振興に原山勝負の方法……………三七  
 過半数は新顔、立候補三十四名・更に……………三七  
 二十名出馬……………三七  
 選挙民に熱なく棄権増加を憂慮……………三六  
 戦塵渦巻く県議選……………三六  
 各都市とも猛烈な白熱戦……………三六  
 太鼓を叩いて投票を勧誘……………三六  
 女子青年団員更生に一役……………三六  
 大先輩に贈る寿像と住宅……………三六  
 唐手教士号授与わが国では最初……………三六  
 県会議員選挙終幕……………三六  
 各村農会毎に試験農場を設置……………三六  
 中、小学生に産組の宣伝……………三六  
 沖縄教職員互助会設立準備着々進む……………三六  
 軍の防衛に即応……………三六  
 先づ南洋漁場の独占を目指す……………三六  
 県市町村債五百七十三万円……………三六

デング熱か沖縄県の青年、鹿児島で……………三三  
 大騒ぎ……………三三  
 本社の大優勝旗二中軍に授与……………三三  
 波上宮に参拝戦捷を奉告……………三三  
 覚悟を新にして奉公の至誠致さん……………三三  
 治安維持に努力……………三三  
 名物の綱引五輪大会に披露……………三三  
 伯国移民十二日那覇出帆……………三三  
 国史一科目に猛烈な反対……………三三  
 琉球古代の発禁物ズラリ……………三三  
 県民の常食甘藷に打撃……………三三  
 沖縄県人は各方面に発展……………三三  
 画期的の躍進振興計画の実結んで……………三三  
 暴利取締の監察員を派遣……………三三  
 飛行機献納運動に参加……………三三  
 皇軍への感謝と武運長久を打電……………三三  
 沖縄県出身兵の活躍……………三三  
 銀翼へ掩護軍用機献納資金へ……………三三  
 残留とは情けない是非出征して……………三三  
 戦死したい……………三三  
 輸出百合根の新品種を奨励……………三三  
 県制覇の偉業は全く成る……………三三  
 奥武山公園グラウンドにて……………三三  
 (二十三日記)(一)……………三三

拳県一体となり尽忠報国の誠……………三七  
 奥武山公園グラウンドにて……………三七  
 (二十三日記)(二)……………三七

政府私下米却って高価……………三六  
 日本人には脅迫や暴行……………三六  
 学童唱歌競演沖縄代表出席……………三六  
 薪木の販売統制……………三六  
 入試審査に算術を加へよ……………三六  
 沖縄県国民精神作興週間……………三六  
 仏教護国団を組織精神作興へ……………三六  
 沖縄で農民運動会……………三六  
 これも非常時だから……………三六  
 沖縄でも大人気事変国債殆ど売切れ……………三六  
 一日に二時間の早起き勤労奉仕……………三六  
 日本の正しい認識をアメリカに徹底……………三六  
 南洋移民の素質が悪い……………三六  
 琉球漆器の進出……………三六  
 消費に節約を強調……………三六  
 肅教大会を開く……………三六  
 教育疑獄取調べから某大事件の……………三六  
 端緒握る……………三六  
 昭和十三年(一九三八)……………三六  
 支庁勤務県視学に浦崎賢保氏を抜擢……………三六

宜野湾小学校長に比嘉視学を起用……………三五  
 後任視学近日発令……………三五  
 視学事務分担……………三五  
 防空陣を強化……………三五  
 琉球文化を研究し世界学界に紹介……………三五  
 “沖縄村”の新建設へ……………三五  
 海外へ海外へ！……………三五  
 “字”事務所制には大いに感心した……………三五  
 麻代用として芭蕉布増産……………三五  
 満洲へ第二の沖縄を建設に……………三五  
 南島沖縄県に軍事施設を要望……………三五  
 不眠不休で活動……………三五  
 沖縄貯蓄強調週間……………三五  
 各町村に招魂社……………三五  
 “沖縄振興計画は極めて順調だ”……………三五  
 “戦死者遺族の慰問を忘れるな”……………三五  
 “戦死者遺族の慰問を忘れるな”……………三五  
 妖言に迷ふな……………三五  
 現地の事思へば苦痛も忍べる……………三五  
 沖縄に脳炎発生……………三五  
 沖縄県農会民間会長実現……………三五  
 太鼓を叩いて市中行進……………三五  
 沖縄各学校“夏の陣”……………三五  
 音楽班も加はり大掛りな汗の奉仕……………三五

沖縄武徳殿竣工……………三五  
 新しい土の開拓へ！……………三五  
 本社九州支社へ淵上知事来訪……………三五  
 経済警察と連絡物価騰貴を抑制……………三五  
 沖縄振興の鍵は教育界の刷新だ……………三五  
 地方財政補給金鹿児島沖縄交付額決る……………三五  
 第三回委員会国民精神総動員運動の……………三五  
 強化へ……………三五  
 大量注文舞込む……………三五  
 漁場・開拓へ沖縄漁夫の進出……………三五  
 知事さんも歩いて下さい……………三五  
 小型農事訓練所……………三五  
 靴屋さん大喜び……………三五  
 出発間際に赤信号……………三五  
 沖縄県下の小売物価を公定……………三五  
 産組運動好成績……………三五  
 海軍軍人として申分ない態度……………三五  
 先生捜しに大童……………三五  
 郷軍沖縄支部の陣容を強化……………三五  
 花嫁軍渡洋移民……………三五  
 県民の奮起を促す……………三五  
 結核を根絶せよ……………三五  
 沖縄県下防空訓練要項……………三五  
 南洋行き作業夫へ県が直営で賄ひ……………三五

資本金千円で半官半民の経営……………三〇五

満洲事変記念日に軍人遺家族慰問……………三〇七

沖繩大島両振興計画の道路費予算可決……………三〇七

六万人総動員の大集団労働作業……………三〇七

今後は第三期戦……………三〇七

街の豚君縮出し……………三〇七

許可になりさう……………三〇七

糸数県商工課長帰来談……………三〇七

各地で記念行事国民精神作興週間始まる……………三〇七

漁業振興に拍車……………三〇七

沖繩県の失業対策……………三〇七

沖繩振興費減額……………三〇七

沖繩県出身兵は言葉に不自由……………三〇七

琉球漆器の海外進出……………三〇七

南島をゆるがす統後女性の雄叫び……………三〇七

忘年会断然廃止……………三〇七

標準語の励行……………三〇七

各市町村に社会教育主事……………三〇七

百八十八万四千円沖繩県明年度予算総額……………三〇七

予算総額……………三〇七

沖繩義勇軍の成績は頗る不良……………三〇七

皇軍へ感謝電報……………三〇七

太田朝敷氏逝く……………三〇七

四十周年祝賀沖繩女子工芸校……………三〇七

淵上知事初登場……………三〇七

新兵さん万歳……………三〇七

移民さんならお嫁に行かう……………三〇七

移民の旅券査証票で発行したい……………三〇七

海を渡る琉球踊り……………三〇七

ブラジル渡航緩和……………三〇七

甘藷の増産計画……………三〇七

「まるで浦島太郎」……………三〇七

期成会を組織し高工誘致に乗出す……………三〇七

振興計画課長に成良一郎氏……………三〇七

昭和十四年（一九三九）……………三〇七

沖繩初の大陸移民出発……………三〇七

沖繩放送局の敷地正式決定……………三〇七

沖繩に専門学校設立を文相に陳情……………三〇七

沖繩から漢那氏輝く内務政務次官……………三〇七

理想部落建設へ大掛りな開墾……………三〇七

「改姓改名時代」……………三〇七

農繁託児所増設を計画……………三〇七

愈よ首里市に待望の沖繩放送局……………三〇七

寒い満洲でも思ふ存分活動……………三〇七

南島は「宝の庫」……………三〇七

沖繩漁夫の進出を要望……………三〇七

「往け満蒙へ」学童の熱弁……………三〇七

拓土の花嫁……………三〇七

沖繩県庁内に開墾事務局……………三〇七

沖繩南進移民篇①南洋開拓の偉功……………三〇七

徴兵忌避目的の海外渡航を戒む……………三〇七

暖い沖繩生れでも満洲で発展出来る……………三〇七

大陸へ青雲の志……………三〇七

満洲移民を奨励……………三〇七

海外雄飛に備ふ具体案成る……………三〇七

ユタを検挙……………三〇七

千甘藷生産の農事改良組合……………三〇七

前年より激減……………三〇七

自慢の迫込みで海南島漁場へ……………三〇七

「沖繩方言」駆逐へ……………三〇七

沖繩振興計画に県民の要望反映……………三〇七

軍需用材の宝庫……………三〇七

懐しの沖繩訪問……………三〇七

標準語使はう……………三〇七

精神作興に神社の増設……………三〇七

本県警察界大揺れ……………三〇七

沖繩振興計画予算……………三〇七

蘭増産割当と増産施設……………三〇七

沖繩県南洋移民座談会……………三〇七

十七勇士帰還……………三〇七

満洲移民が少いぞ……………三〇七

県下全農村に更生簿記帳徹底……………三〇七

花嫁も交へ南米移民出発……………三〇七

喪の凱旋三勇士の遺骨……………三〇七

普天間校の標準語奨励……………三〇七

遺骨礼送の米国へ感謝……………三〇七

広告（ブラジル行家族移民募集）……………三〇七

時局認識に新聞読め、墓地の改善は急務だ……………三〇七

光栄の御親閲参加隊……………三〇七

武装練々しく壮途へ……………三〇七

満洲農業移民十三名採用……………三〇七

七勇士帰還……………三〇七

首里署員が標準語励行……………三〇七

沖繩に満洲移住後援会……………三〇七

大陸の某方面へ沖繩の分村計画……………三〇七

内地農村へ沖繩馬……………三〇七

南島へ錦衣帰郷……………三〇七

宜野湾村各字農事改良組合役員……………三〇七

標準語励行は青年団から……………三〇七

金保有調査委員全県で千二百余名……………三〇七

広告（ブラジル行家族移民募集）……………三〇七

県民の約半数三十万人送る……………三〇七

芋も砂糖も今年は豊年……………三〇七

闘牛大会……………三〇七

広告（県下一ノ闘牛大会開催）……………三〇七

まづ三百五十戸本年中に移住……………三〇七

南洋から応召兵……………三〇七

漁業権取消され県人漁夫に恐慌……………三〇七

青年は多く南洋へ……………三〇七

沖繩県から九十三名参加……………三〇七

女子部を併設し農業科重視せよ……………三〇七

物価調整に協力各町村に委員会……………三〇七

纏れ解決石垣島開墾問題……………三〇七

経済更生特別助成事業補助……………三〇七

強い郷土勇士……………三〇七

大陸視察の嘉数校長熱弁を揮ふ……………三〇七

沖繩の朗話、燃える愛国心……………三〇七

男子は開墾作業……………三〇七

本県生徒と力比べ宮崎中学から挑戦……………三〇七

本島内砂糖の郡市町村別概評……………三〇七

英霊十一柱けふ喪の凱旋……………三〇七

近く発会の運び……………三〇七

武勳土産に二十九勇士晴れの帰還……………三〇七

公定価格設定品展示会開催……………三〇七

産青連の旗の下に……………三〇七

更に十五ヶ町村にも結成……………三〇七

町村の設置反別……………三〇七

護れ南島の空……………三〇七

晴れの帰還きのふ三十四名……………三〇七

ハワイから懐しの沖繩へ……………三〇七

沖繩県下に興亜教育熱……………三〇七

中頭畜産組合山羊皮二七一枚供出……………三〇七

町村便り……………三〇七

済生会へ寄附宜野湾村が……………三〇七

張り切る土の戦士けふ先遣隊出発……………三〇七

宜野湾大山闘牛大会……………三〇七

本県の移出牛増加……………三〇七

意気の南島健児愛汗の活舞台……………三〇七

労力調整計画細胞組織化……………三〇七

宜野湾村にチブス発生……………三〇七

十二勇士帰還す……………三〇七

神鎮る靖国神社で懐かしい対面……………三〇七

快活明朗性に乏し……………三〇七

男子志を立て出郷田園荒れんとす……………三〇七

低級な壮丁の学力……………三〇七

辞令……………三〇七

芸酌婦女給に月一回の休日制……………三〇七

南米に行け……………三〇七

経済更生特別町村……………三〇七

戸数割一戸平均毎年増の傾向……………三〇七

漸次普及する動力共同製糖場……………三〇七

沖繩県下警防団令旨奉戴式……………三〇七

螟虫検取日割	四〇〇
物言はぬ感激の握手	四〇〇
宜野湾村会	四〇〇
中頭水産会役員改選	四〇〇
中頭体研主催ダンス講習会	四〇〇
中頭橋にあふれて！どっと帰還兵	四〇〇
開墾工事に青年を動員	四〇〇
入島緩和で勇んで比島へ	四〇〇
大陸に築く「沖繩村」	四〇〇
那覇市に移民訓練所	四〇〇
沖繩県学友会二十日夏季総会	四〇〇
輝やく帰還きのふ二十一勇士	四〇〇
輝く沖繩警防団	四〇〇
英霊の為に勤労奉仕日	四〇〇
火葬に識者は賛成	四〇〇
青少年義勇軍けふ壮途へ	四〇〇
方言の殲滅へ	四〇〇
南米移民奨励に長尾拓務省理事沖繩へ	四〇〇
渡辺部長初の人事	四〇〇
郵便局に描く沖繩移民景気	四〇〇
沖繩の興亜奉公日	四〇〇
市町村財政補助金割当額決定す	四〇〇
代用教員三十名へ昨日発令	四〇〇
農山漁村行事	四〇〇

輝く九勇士きのふ帰還	四〇六
二世の教育は祖国日本で	四〇六
“南進沖繩に感謝”	四〇九
間作緑肥奨励で肥料難を突破	四〇九
沖繩地方防空訓練	四〇九
県農会への入糖筆頭は玉城村	四〇九
三十年の想出残し県立図書館愈よ移転	四〇九
財政補助金減税額で二〇万円	四〇九
事変国債購入	四〇九
補給金による減税は国債購入に当てよ	四〇九
中頭郡首席訓導会	四〇九
宜野湾村の隣校研究会	四〇九
県下学童の唱歌コンクール	四〇九
ペルーより寄附	四〇九
桑園面積増加	四〇九
沖繩の盲人に光	四〇九
紀元二千六百年記念造林	四〇九
町村農会に督励費与へ	四〇九
分蜜原料の搬入確保	四〇九
南進拓土は征く	四〇九
燈油の市町村割当	四〇九
靖国神社へ新合祀	四〇九
満洲座談会	四〇九
分蜜原料搬入立会人百三十八名	四〇九

来期糖用の甘蔗作付面積増加す	四一五
八重山遂に県再制覇	四一六
西表島の開発は愈よ実現へ	四一七
迷子も話す標準語	四一七
全員無事に帰島	四一七
中頭郡青年団の力強い決議	四一八
中頭、国頭の河や海で広範囲な	四一八
青酸加里密漁事件	四一八
楽観は許されぬ沖繩振興費問題	四一九
西表島開墾計画案成る	四一九
森永製菓が沖繩に工場設置	四一九
比律賓の麻景気	四一九
白衣の勇士達に花嫁さんをお世話	四一九
経済更生の村民大会	四一九
女性も交り盛大に開校	四一九
宜野湾村豚疫注射	四一九
商工報国目指し自戒自粛せむ	四一九
貝島大之浦炭礦労務者募集	四一九
殊勝な白衣佳人と再起待つ勇士ら(下)	四一九
沖繩県当局が移民の保護へ	四一九
補給金による戸数割減税	四一九
沖繩移殖民講演協議会	四一九
移民保護・取扱業者救済へ	四一九
全農家の署名陳情	四一九

時局対策審議中心の本年度県会	四一〇
愈よ開幕	四一〇
甚だしく不当な黒糖公定値	四一〇
社会事業大会	四一〇
中頭西部砂糖小売商組合	四一〇
町村便り	四一〇
学童唱歌大会けふ女師校主催	四一〇
寒さにも強くて沖繩人は最も優秀	四一〇
大陸に沖繩村	四一〇
喪の凱旋きのふ英霊三柱	四一〇
副業協会主催帽子編競技	四一〇
満洲移民の実際【一】	四一〇
漆配給割当決定	四一〇
特に複雑多岐に亘る	四一〇
県内小作料を規格化	四一〇
満洲移民の実際【二】	四一〇
応召商工業者らの商品仕入れは割引	四一〇
満洲移民の実際【完】	四一〇
完全に姿を消す糸満の馬車軌道	四一〇
愈よ本月から……通年制を採用	四一〇
甘蔗搬入数量決定	四一〇
武勲を土産に郷土29勇士	四一〇
大陸灼けた郷土44勇士	四一〇
県が小麦増産計画	四一〇

興亜の五柱きのふ喪の凱旋	四一〇
警察界大異動発表	四一〇
振興事業費予算案	四一〇
男師校全員が野営で訓練	四一〇
雲行悪い沖繩県会	四一〇
県民の栄養問題根本的に調査	四一〇
中頭郡畜産品評会	四一〇
本県の一戸当収入全国平均の四割強	四一〇
武勲を土産に郷土82勇士	四一〇
無修正で原案可決	四一〇
昭和十五年(一九四〇)	四一〇
祈武運長久	四一〇
宜野湾村営の農民道場	四一〇
本年七月執行の町村会議員選挙	四一〇
本県下労働者の最高賃銀決定す	四一〇
各町村で製糖講習	四一〇
永遠に輝く武勲	四一〇
勤労報国隊を組織	四一〇
風俗取締り新方針	四一〇
沖繩県も教員不足	四一〇
中頭郡西部砂糖商組合	四一〇
模範的な隣保村	四一〇
沖繩県で三ヶ所	四一〇

中頭郡教育会本年度行事決る	四一七
電信電話通話事務開始	四一七
中頭東部産業商工委員会	四一七
澱粉用品種一〇四号を育成	四一七
展覧会や体育会	四一七
沖繩から四氏満洲開拓義勇軍	四一七
奉仕教員隊	四一八
沖繩県の標準語奨励強化に拍車	四一八
先遣隊近く渡満	四一九
妹さんを探して下さい	四一九
本紙献納者(二)(申込順敬称略)	四一九
青年競技大会閉幕!	四一九
共同製糖場設置陳情	四一九
民衆指導を積極的に	四一九
県下十五ヶ所に工場を設置	四一九
昭和十六年(一九四一)	四一九
各種営業取締規則改廃	四一九
図書館長会議	四一九
黒糖に不正行為?	四一九
新体制実践比へ中頭郡	四一九
糖商組合解散	四一九
改廃の岐路に立つ	四一九
八重山農学校合格者発表	四一九

英霊水へに神鎮まる	四七〇	閩の絶滅へ強調運動週間	四七五	青少年指導の教化を徹底	四七二
沖繩部隊が帝都一番乗り	四七〇	抜荷を取締る	四七三	社告(朝日新聞社)	四七二
開拓義勇軍進出	四七〇	配給の円滑期す	四七三	「同志の誓」も成って農業増産報国挺	四七二
国民学校の憂鬱	四七〇	誉れの育英資金	四七三	身隊動員計画	四七二
亡びゆく古典・琉球	四七〇	沖繩文化連盟八月九日発会式	四七三	二月からさあ大飛躍、沖繩県下の	四七二
青年教育に重点	四七〇	傷痍軍人の修養懇談会	四七三	国民貯蓄	四七二
令旨捧読式	四七〇	海洋指導者実習	四七三	ハブを食用に供しよう	四七二
運動要綱指令	四七〇	公定価格展示会	四七三	南方水産開発営団を速かに組織せよ	四七二
沖繩市町村長会議	四七〇	「転業」待った	四七三	必らず女子部を青年学校全部に開設	四七二
初の町村行政監査	四七〇	仇討ちの時が来た	四七三	国民学校教育へ示す熱意	四七二
本県の人口確定数	四七〇	国難突破に覚悟新た	四七三	戦捷への感激を盛上げ南方発展へ導く	四七二
新作品をねらふ	四七〇	再渡航を誓って蘭印から引揚げ	四七三	大口から小口へ	四七二
遺家族の副業講習	四七〇	沖繩県民帰る	四七三	必要の誓ひ堅し大詔奉戴日の沖繩県	四七二
第二十八回論功行賞発表	四七〇	北ボルネオの邦人漁夫は皆無事	四七三	南方は我らが天地	四七二
漁業の統制本県でも考慮	四七〇	ダバオ完全占領に快哉叫ぶ沖繩県民	四七三	沖繩にラジオ商業組合生る	四七二
南島の体力祭典展く	四七〇	再渡航を誓って蘭印から引揚げ	四七三	近く力強く結成大日本婦人会	四七二
満洲建設奉仕隊汗と泥の猛訓練	四七〇	沖繩県民帰る	四七三	沖繩県支部	四七二
花咲く代用食研究	四七〇	文芸作家協会生る	四七三	南方漁場進出の準備急ぐ	四七二
国民精神文化講習会	四七〇	絶対狂はぬ沖繩漆器南方進出目指す	四七三	五百年前早や貿易の地	四七二
燈火管制の策	四七〇	泡盛原料の代用品や醸造研究	四七三	南方志願の自動車校卒業生	四七二
行け！大陸へ拓土を募る	四七〇	海の増産に拍車	四七三	南方事情講習会出席者	四七二
南方開発に沖繩県民の使命	四七〇	食肉の割当制実施	四七三	比島方面へも漁民を送出	四七二
食糧増産指導者の鍛錬講習	四七〇	力強い門出沖繩翼賛壮年団結成式	四七三	今度は南薩漁場へ	四七二
盆祭の冗費節約沖繩県呼掛く	四七〇	大東亜共栄圏の中核となる沖繩	四七三	沖繩理髪業組合連合会結成	四七二

昭和十七年(一九四二)

熱帯農業を練へん南進の基地ここ沖繩	四七六	金屬献納でご奉公	四八五	備へあれば憂なし県下各地で防空訓練	四九三
「さらば旧正月よ」沖繩の新生活運動	四七六	南方漁場へ一番乗り	四八五	沖繩の振興事業明年度五百万円に上る	四九三
結実す	四七六	南国文化の飛躍約し流れ出る第一声	四八五	南方へ行く漁夫を鍛ふ	四九三
翼賛選挙実現に昂まる県民の熱意	四七六	果物の王国を建設	四八五	献金に示す必勝の意気	四九三
決意語る平良団長	四七六	沖繩県支部長に平良辰雄氏を指名	四八五	「話し方」の本で勉強	四九三
剝船	四七六	電波に乗る郷土色	四八五	標準語使用を徹底的に奨励	四九三
県道復旧を要望	四七六	郡下国民学校教員異動	四八五	開拓団編成推進員設置	四九三
本紙連載小説「新雪」の養和田先生	四七六	開票の興奮	四八五	沖繩大豆供出農政課が督励	四九三
県会議員選挙きのふ告示	四七六	物資課生る	四八五	「大豆の闇」完結	四九三
全国でも稀な沖繩県の試験地獄	四七六	生活扶助資金	四八五	二千万円突破目指し翼賛会沖繩支部が	四九三
相次いで立候補、まづ県議選に初名乗	四七六	更新された役員、翼賛会沖繩県支部	四八五	恒久的貯蓄運動	四九三
心は躍る南方漁場	四七六	本県の立候補十二氏	四八五	沖繩の先生方内原訓練所入り	四九三
剝船	四七六	南海へ一番乗り沖繩漁民は愈よ征く	四八五	産報の防牒陣徹底	四九三
パタピヤ水産業は本県人の独壇場	四七六	古豪に加はる新鋭	四八五	真実「南洋は第二の沖繩」	四九三
南方建設戦に備へる沖繩	四七六	衆議院議員総選挙	四八五	県出身官吏教員を増派せよ	四九三
県議立候補者	四七六	沖繩から大豆の供出	四八五	南方勇士へ新鮮なお魚を	四九三
具体的方針に就ては肅正委員会で協議	四七六	八県教育大会けふから開く	四八五	三地方事務所長決定	四九三
県議立候補者	四七六	琉球八社復興へ	四八五	一村一社の建立へ	四九三
立候補者届出	四七六	昭南島でも活躍頼もしい沖繩県の漁夫	四八五	南方農林資源講習会受講者	四九三
僕の「この一戦」①高橋突破に猛勉強	四七六	南方研究委員会設置や	四八五	海洋民族の真価	四九三
県議立候補者	四七六	農事試験場の完備	四八五	本土にひろく沖繩文化	四九三
内地賑はず沖繩野菜	四七六	子供に文化の恵み	四八五	回覧板	四九三
東亜民族工芸展	四七六	有事の際は防空戦士平素は増産に協力	四八五	遺家族相談函中頭郡下に設置	四九三
尾翼燈	四七六				

南進先駆の沖繩人……………	四九八
回覧板……………	四九九
南方もいしが北を忘れるな……………	四九九
沖繩独自の創案春山勝負……………	五〇〇
古巣へ帰る欲び、南方漁場進出待機の沖繩漁夫……………	五〇〇
壯年団員の点呼中頭郡各町村毎に実施…	五〇〇
病害虫駆除予防実地指導講習会……………	五〇〇
連合会を組織中頭郡下の統後奉公会……………	五〇〇
“拓訓を実施”中頭郡青少年団……………	五〇一
五ヶ年の敢闘成る……………	五〇一
古文化の香り琉球舞踊を鑑賞……………	五〇一
昭和十八年(一九四三)	
水産製品検査愈々施行……………	五〇五
各村に社会教育主事を設置……………	五〇五
必勝貯蓄へ体当り……………	五〇五
輝く和親のお手本……………	五〇五
優良組合表彰産組沖繩県支会……………	五〇五
輝く農村厚生事業……………	五〇六
優良保育所表彰本県から二ヶ所厳選……………	五〇六
五千戸を本土へ移住……………	五〇六
標準農村指定……………	五〇六
まつ学園から標準服……………	五〇七

標準農村の設定……………	五〇七
貯蓄殊勲甲にほまれたの知事賞……………	五〇七
戦ふ農村へ健全娯楽……………	五〇八
学童の指揮で晴天動員……………	五〇八
桃原、仲井間両代議士……………	五〇八
政府委員に任命さる……………	五〇八
甘藷の横流れ買出しを防ぐ……………	五〇九
分村計画決る大陸へ二千七百戸……………	五〇九
種馬検査日割……………	五〇〇
第一回競犁会……………	五〇〇
農村の健全娯楽……………	五〇一
二十箇所を表彰標準語運動の優良町内会……………	五〇一
農村へおくる巡回映画班……………	五〇一
広告(小橋川鍼灸院)……………	五〇二
必勝生活へ突入……………	五〇二
分村熱昂まる……………	五〇三
祝詞以前(1)……………	五〇四
祝詞以前(2)……………	五〇四
港の防諜戦士……………	五〇六
祝詞以前(3)……………	五〇九
祝詞以前(4)……………	五〇九
祝詞以前(5)……………	五〇九
祝詞以前(6)……………	五〇九

武勲の五家庭を表彰……………	五〇五
三村を指定標準農村……………	五〇五
三青少年団表彰をうく……………	五〇五
大陸分村へ邁進す……………	五〇五
著しい向上ぶり……………	五〇六
土地改良論議……………	五〇六
中頭郡畜産品評会の褒賞授与式……………	五〇六
学園に相撲を普及……………	五〇七
昭和十九年(一九四四)	
学園に軍人部新設……………	五〇三
女学生に看護法訓練……………	五〇三
優良部落会などを表彰……………	五〇三
援護事業の基礎調査……………	五〇三
造船施設を拡充せよ……………	五〇三
不毛地からお蔭増産……………	五〇三
働け少年と老人……………	五〇三
海洋の道場へ皇國を背負ふ少國民……………	五〇三
胸に「戦士」の誇り……………	五〇三
食糧県の特性を発揮……………	五〇三
中等学校長常会……………	五〇三
地方事務所活動強化……………	五〇三
中頭郡教育部会総会……………	五〇三
普天間宮御造営着工……………	五〇三

町村農業会設立委員を任命……………	五〇五
必勝教育の構想・座談会……………	五〇五
「母師読本」成る……………	五〇六
戦時生活を指導……………	五〇六
六町村農業会正式許可……………	五〇六
ビリの雪辱に颯起……………	五〇六
各地短信……………	五〇九
労力供出に……………	五〇九
第二次教員異動……………	五〇九
火線の農兵……………	五〇九
十六青年学校認可……………	五〇九
幾多の大功績残し東恩納支庁長勇退……………	五〇〇
農産物品評会褒賞授与式……………	五〇〇
貯蓄協議会……………	五〇一
中頭郡で不振部落会を指導……………	五〇一
三千五百万突破へ……………	五〇一
学童の集団疎開……………	五〇二
教員異動……………	五〇二
台湾、沖繩などの我が基地を狙ふ……………	五〇三
足手纏ひどころか沖繩の幼児・防空訓練に参加……………	五〇五
復旧、防備強化に全島火の玉……………	五〇五
敵は蠢動油断すな……………	五〇五
沖繩が筆頭……………	五〇六

一刻の猶子なく被害農作物を盛返せ……………	五〇六
仇討増産を誓ふ痛憤の報國農場隊員……………	五〇六
火を吐いて海中へ、一斉射撃に敵機の末路……………	五〇七
食糧の自給へ軍民協力……………	五〇七
租税を軽免……………	五〇七
現役兵集合……………	五〇八
お礼の演芸会……………	五〇八
陣鼓……………	五〇八
敢然と戦ひ抜け爆弾何するものぞ……………	五〇八
作業へ主力……………	五〇八
陣鼓……………	五〇九
地方行政会議長会議……………	五〇九
触れずに届け出よ、触ると危い……………	五〇九
万年筆の爆弾……………	五〇九
怠るな国民登録……………	五〇九
砂糖の配給……………	五〇九
羽搏く、愛国沖繩号……………	五〇九
被保険者申告……………	五〇九
勝利の日待つ抑留県人元氣……………	五〇九
広告(二高女生ニ告グ)……………	五〇九
広告(生徒並に父兄に告ぐ)……………	五〇九
英魂永久に神鎮る……………	五〇九
水産増産へ補助金交付……………	五〇九

今後の防空訓……………	五〇一
罹災者へ衣料……………	五〇一
次の空襲に備ふ……………	五〇一
微用を熱願、報復を作業に……………	五〇一
本県でヒマ製油、航空決戦へ自給態勢……………	五〇一
味噌醬油自給へ……………	五〇一
農業会機構刷新……………	五〇一
罹災職員児童へ援護に起上る教育界……………	五〇一
広告(父兄に告ぐ)……………	五〇一
災害の根本対策……………	五〇一
紙上表彰猛火を冒して……………	五〇一
職域死守の県病院……………	五〇一
回覧板……………	五〇一
けふ新穀感謝祭……………	五〇一
電報料金改正来月一日から……………	五〇一
罹災者に御願ひ……………	五〇一
“好餌御座んなれ”必殺の魚雷に敵艦真二つ……………	五〇一
人事抄……………	五〇一
教員異動発令……………	五〇一
蔬菜増産へ一斉植付運動……………	五〇一
増産完遂へ衆智……………	五〇一
撃敵に頑張る……………	五〇一
災罹応徴家庭へ見舞金……………	五〇一

陸路乗越え農兵隊敗退	〓	國有林も払下ぐ	〓	諸増産へ普天問試験地の試み	〓
罹災肥料の配合実地講習	〓	救援の物質罹災者へ配給	〓	「桑茶で英気を」養蚕試験場	〓
戦小農村だより	〓	決戦学園の姿	〓	製法に成功	〓
B29一機沖繩に侵入	〓	回覧板	〓	回覧板	〓
神機正に到来すいざ怨敵撃滅へ邁進せん	〓	砂糖以二十万枚	〓	噂の種沖繩熱、県衛生課に訊く	〓
配給数量を増す	〓	米英撃摧祈願県下各神社で	〓	罹災者へ布団	〓
民心を聴き、当局に訊く	〓	決戦学園の姿	〓	前年通り施行す入学考查二月末繰上げ	〓
急告(那覇東町玉城染場)	〓	勝抜く貯蓄戦	〓	那覇で行ふ入学者銓衡会を設置	〓
戦時対策委員会製糖対策を協議	〓	給料割いて労務戦士の見舞金	〓	食糧増産へ罹災者を移住開墾	〓
回覧板	〓	広告(青年師範昭和二十年度生徒募集要項)	〓	正月用特配酒購入券配布日	〓
回覧板	〓	県民一丸、いざ仇討ち貯蓄	〓	甘藷供出を完遂	〓
今後の方針青少年団指導	〓	一般貯蓄を追加	〓	昨夜パット明るく九電、那覇一部へ点燈	〓
沖繩百号福岡で声価	〓	寒さ迎へて温い贈物急ぐ	〓	煙草の耕作反別	〓
四年生も卒業	〓	燃やせ愛林の心、近頃林野の荒廃ふり	〓	回覧板	〓
県会招集十二月三十一日	〓	森林資源を確保	〓	定員を二割減中等学校入学考查	〓
回覧板	〓	主要食糧配給票切替へ	〓	期日決る	〓
救護所を整備	〓	配給欄	〓	燃えない家	〓
郷土再建に邁起	〓	棒にふる物資配給、都市復興への烈々の氣力望む	〓	人事抄	〓
勝抜く徴兵検査	〓	八百五十六万余円明年度予算決る	〓	浮かるなお正月県民の自肅要請	〓
農作物愛護県民の啓蒙運動	〓	臨機必勝の態勢	〓	罹災者へ藁布団	〓
罹災者に農耕	〓	異彩の供進会宜野湾村	〓	迎春火線◇◇県民に檄す	〓
決戦学園の姿	〓				

戦力化へ突進	〓	民有材増産新に補助金	〓	戦力資材に薬工品を増産	〓
長寿減敵を見ん	〓	征け作業場へ県民に檄す	〓	見舞金累積	〓
神経戦に勝てB29の頻襲に備へよ	〓	綱紀を柔す官吏	〓	荷馬車の闇敵重取締る	〓
決戦食糧の自給	〓	空襲見舞金十一万円に達す	〓	勤労学徒へ地下足袋の特配	〓
茸をどっきり、公私有林を活用	〓	甲種飛行予科練習生募集	〓	就職は県が斡旋、戦力増強面へ	〓
県鉄復旧基本方策	〓	愛の結晶日婦供出品累積	〓	新卒の生徒達	〓
神鷲に続かん中頭青少年ら	〓	全県民に大外魂	〓	県町村長会正副会長選挙	〓
敵の謀略を撃て	〓	回覧板	〓	沖繩本島に敵大型二機侵入	〓
生産と作戦即応	〓	煙草の隣組配給	〓	沖繩熱も「一等症」に	〓
国土防衛に燃ゆ	〓	医療を徹底、国保組合を活発化	〓	敵国在留者家族へ救済金	〓
零戦	〓	農本の道揺かず	〓	馬は戦力だ徴用忌避を戒む	〓
一般とは切離す学徒勤労体制を強化	〓	神州護持へ皇国女性総躍起	〓	今年こそ潤沢にうんと蔬菜を増産	〓
頃に上昇する貯蓄対策	〓	種子は大丈夫蔬菜増産へ拍車	〓	もつと掘れ堅固な防空壕	〓
罪なき堅陣	〓	戦争保険金の支払に就て急告(最終)	〓	試験放送	〓
畜産資源を確保	〓	昭和二十年度生徒募集広告	〓	桐実を集める	〓
敵前徴兵検査	〓	強力に新発足、使命完遂へ乙種農兵隊	〓	ヤラブ実蒐集	〓
何冀々燃ゆる闘志	〓	増産に新登場	〓	水産増産へ	〓
待避・我らの「勘」で大規模空襲に備へよ	〓	豪放で手腕家島田新知事の横顔	〓	広告(米英撃滅ニ保険報國)	〓
台湾、沖繩に敵艦載機延五百機が来襲	〓	配給欄	〓	味噌価格改訂	〓
又も艦載機四百	〓	郵貯と同様農業会取扱預金	〓	決戦へ畜力	〓
台湾全島、沖繩に来襲	〓	電音波兵器の要員募集	〓	零戦	〓
聴け「神なる精神」	〓	野草食で勝抜く	〓	剛勇南海に轟く本県五勇士	〓
今ぞ全県民も特攻隊	〓	敵機の偵察侵入	〓	風浪も阻まず、決死渡海作業へ挺身七少年	〓

敵艦載約二十機本島南部に侵入	六五〇	農地の提供報奨金を交付	六〇〇	使命重大教職員、今ぞ奮起一番	六二一
本県は十割五分、待望の戦時手当	六四九	勝利の途、県民如何にあるべきか	六〇〇	指導力を期待	六二二
本県で身体検査	六四八	被害は軽微空襲下の行動よし	六〇一	心翼比島へ翔る	六二三
敵、台湾沖繩を襲ふ	六四七	牛豚供出に集荷補助金	六〇二	戦場沖繩の進む道、島田知事闡明	六二四
主に飛行場投弾	六四六	士の戦士養成	六〇三	東奔西走飯米問題其他	六二五
“何でも食へるぞ”野生植物の食糧化	六四五	公平に仲良く煙草の隣組配給	六〇四	待遇改善へ青枝教員講習	六二六
沖繩諸島で七四機叩く	六四四	笑止、ピラを撒布	六〇五	疎開地区を指定	六二七
本県知事に島田毅任命	六四三	県庁分散腰据えて決戦執務	六〇六	決戦手帳	六二八
糖業揺がず、春植四千町歩	六四二	比島に轟く郷土五勇士を讃ふ	六〇七	敵も苦しいぞ、撃墜機が語る	六二九
広告(十一月分泡盛購入券配布日)	六四一	祖先の不撓魂蘇る	六〇八	“哀れな姿”	六三〇
軽拳妄動戒む	六四〇	伝統脈々たりこれある限り必ず勝つ	六〇九	逸る乙女達	六三一
芋の等級改正	六三九	あの神技こそ七生報国の道	六一〇	芋二億万貫、増産の手はどう打つ	六三二
第三次土地改良	六三八	中頭郡常会	六一一	B24の頻襲、我が補給路哨戒	六三三
自給肥増産金肥不足を補ふ	六三七	回覧板	六一二	堆肥増産へ少国民頑張る	六三四
甘藷増産助成	六三六	大豆をうんと七千五百町植付け	六一三	二市二郡の立退人員	六三五
骨粉を利用	六三五	決戦問答“県当局に訊く”	六一四	県民を三十万に半減	六三六
鉄壁陣に被害最少	六三四	島田新知事に望む	六一五	目標突破千万円	六三七
敵機頭上に来らば速に待避せよ	六三三	新春を嬉々と米英征伐を語る	六一六	集合考査を止め内申書文で採用決む	六三八
恐るに足らず敵、ロケット爆弾を使用	六三二	豚の公価農家に周知	六一七	決戦手帳	六三九
助教増俸	六三一	明朗元気でやらう	六一八	糖価大巾引上げ	六四〇
勤勉手当、功罪を明かに	六三〇	創意と工夫で仕事は力一杯に	六一九	泡盛、糖汁で造る	六四一
戦列挺身の者に支給	六二九	“作らぬと食へぬぞ”官も民も	六二〇	敵機の頻襲	六四二
中央でも賞讃営団活動	六二八	芋作れ、籠城生活に備へよ	六二一	本島中部へB24機侵入	六四三
決戦主食糧に表を増産	六二七	郷土の古文獻国頭郡へ疎開	六二二	野草を食はう	六四四

決死の同志募り職域死守の義勇隊	六二九	将に展開	六二七	勝つぞこの意気	六二七
決戦戦場へ突撃	六二八	社説「沖繩決戦」	六二八	沖繩の基地化を強行	六二九
防衛隊を組織	六二七	本土決戦の第一歩、驕敵	六二九	内閣、我謝で激戦中、南部地区に	六三〇
近く家庭へどつと必需物資	六二六	断じて覆滅せよ	六三〇	皇軍勇戦	六三〇
敵敵撃滅の歩武を進む	六二五	次期作戦準備、米海軍当局豪語	六三一	沖繩本島従軍第一報「最前線にて本社	六三〇
女学生も篤志看護婦	六二四	基地獲得へ敵執拗	六三二	宗貞特派員発	六三一
敵来らば断乎粉碎	六二三	沖繩本島の敵二個師、艦船千四百隻を	六三三	敵那覇、首里を指向先鋒約一里に迫る	六三二
回覧板	六二二	動員	六三三	那覇市外で激戦我が守備隊敢闘	六三三
欠席罹災生徒ニ告グ	六二一	最大の水陸両様作戦	六三三	沖繩の全兵力を集中敵那覇へ攻撃強行	六三三
古いのを活用教科書文具	六二〇	損害を喫しつつも、敵一部漸次進出	六三三	社説「沖繩決戦に総進撃せん」	六三三
義勇隊指導優秀教員を抜擢	六一九	敵飛行場整備に躍起	六三三	沖繩県民の奮闘祈る	六三三
広告(沖繩師範学校)	六一八	女性も斬込敢行	六三三	悔り難き敵鉄量攻勢、大砲を小銃代り	六三三
学徒も軍要員に	六一七	水上特攻隊出撃す、沖繩本島東海面で	六三三	に乱射	六三三
首里に県立病院	六一六	奮戦	六三三	必勝に責任増産	六三三
広告(昭和二十年度県立水産学校入学	六一五	見よ無敵の「斬込み」	六三三	戦勢樂觀を許さず、帰趨を決す	六三三
候補者)	六一四	一人十殺だ	六三三	こと数日	六三三
石橋叩いて渡る、不時に備ふ食糧態勢	六一三	勝利を堅く信ぜよ	六三三	敵新上陸を企図か	六三三
B29が初来襲	六一二	敵、全面猛攻を反復、地上戦闘	六三三	戦艦等七隻轟沈破、荒鷲、艦船群を	六三三
敵の有力機動部隊沖繩近海に行動	六一一	本格激化	六三三	反復猛攻	六三三
本土侵寇いよいよ急	六一〇	一億が大桶公精神	六三三	空挺隊沖繩に強行着陸	六三三
沖繩本島へ敵砲撃熾烈	六〇九	沖繩本島一進一退の激戦	六三三	沖繩の敵を大挙強襲二十一隻を轟沈破	六三三
延五百機が来襲	六〇八	敵の艦砲射撃執拗	六三三	二空母、三戦艦等五十一隻を屠る	六三三
神風賦	六〇七	沖繩戦況、牧港、嘉敷に敵目標	六三三	小型機頻襲に敵戒	六三三
此神機こそ逸すな「琉球決戦」	六〇六	一万八千余を殺傷	六三三	小型二百余機来襲	六三三



那覇・首里へ敵侵入	六〇	強力な戦爆基地へ敵、沖縄の整備急ぐ	六一	マックアーサー空路沖縄へ	六〇
敵、我が堅陣を猛攻	六〇	沖繩師、沖繩一中晴の表彰式を挙行	六一	沖繩の米損害三百三十四隻	六〇
百七十機で連襲	六〇	南九州へ八十機	六一	道路、飛行場の構築	六一
那覇・首里の南方で激闘	六〇	食糧増産・集団農業への期待	六一	沖繩県人を救へ	六一
沖繩からの本格来襲を警戒	六一	沿岸の船舶攻撃沖繩から百四十機	六一	食なく衣なく家もなし	六一
沖繩北方に敵艦蠢動、伊平屋島を砲撃	六一	沖繩を連続強襲	六一	得意の漁業やバナマ帽製造	六一
九州上空の航空決戦近し	六一	敵側も隠せぬ特攻隊の威力	六一	沖繩の疎開学童慰問	六一
臨時議会召集・重大戦局に対処	六一	沖繩へ猛攻続行、嘉手納沖で二艦屠る	六一	沖繩疎開者救済陳情	六一
南部島尻に戦線整理	六一	敵機の流れを頭に断じて生産死守	六一		
敵艦隊新行動へ、沖繩作戦から離脱	六一	陸海、敵侵攻に対し戦備着々と強化	六一		
バックナー即死す	六一	小型の行動圏拡大、沖繩から	六一		
沖繩の皇軍要地奪回	六一	南鮮に及ぶ	六一		
沖繩の戦略価値を敵揚言	六一	“沖繩文化”を護れ	六一		
艦船五隻を轟沈破	六一	小禄を死守、海軍部隊	六一		
沖繩の損害を敵発表	六一	敵、沖繩施設を強化	六一		
牛島中将訣別の辞	六一	敵機、また蠢動を開始	六一		
過去最大の激戦	六一	荒鷲、沖繩基地を強襲	六一		
一切の行動を戦勝の一途に	六一	マックアーサー沖繩を指揮下に	六一		
内閣告諭・国難打開を闡明	六一	沖繩に海上特攻隊	六一		
久米島東岸に敵上陸	六一	九州各地へ二百十機	六一		
“半兵”で敢闘、沖繩の学徒隊	六一	沖繩は敵機の蟻地獄	六一		
義勇隊に魂を打込め	六一	機至らば沖繩を挟撃	六一		
沖繩の疎開児童に文化激励	六一	働く沖繩乙女へ誠心	六一		
沖繩を爆撃基地に、B 29 群も侵攻態勢	六一	マックアーサー、二十八日日本へ	六一		